

「海洋地球観測探査システム」の計画策定における利用者ニーズの反映について

「海洋地球観測探査システム」の計画策定においては、以下のとおり、「地球観測の推進戦略」のとりまとめの際に幅広い学識経験者の参画の下に検討・整理された利用者ニーズへの対応が検討の基礎となっている。今後事業を実施するに当たっては、文部科学省に設置した推進本部において、プロジェクト進行管理を行いつつ、データ保有者、データ統合を担う者、データユーザ等によるフォーラムを開催し、更なるニーズの把握及び必要な計画調整を実施することとしている。

我が国地球観測の指針

○地球観測の推進戦略(H16.12.27 総合科学技術会議)

<位置付け>

我が国全体としての体系的な観測計画の立案や関係府省・機関間の効果的な連携を図る必要があり、また、GEOSS10年実施計画における我が国の貢献のあり方を明確にし、国際的な対応を戦略的に進めることが必要であることから、今後の地球観測に関する我が国における取組の基本的な考え方を明確にするため、総合科学技術会議においてとりまとめられた。

<関連記述>

・分野別の推進戦略

1. 地球温暖化 全球的把握 海洋二酸化炭素観測網の整備、2. 地球規模水循環 地球規模水循環統合観測システムの構築、3. 地球環境 海洋環境変動の長期観測、5. 風水害 異常気象現象の探知のための観測網の高度化、6. 大規模火災 森林火災の発見と状況把握、7. 地震・津波・火山 観測空白域のない地震・津波の定常的・長期的観測網の構築 衛星リモートセンシング技術の高度化、8. エネルギー・鉱物資源、11. 海洋生物資源、12. 空間情報基盤 空間情報基盤の整備、13. 土地利用及び人間活動に関する地理情報 都市・集落分布データの整備、14. 気象・海象 気象・海象観測の維持・継続 海洋・海上気象の長期変化の解明 衛星による気象・海象観測の充実、15. 地球科学 超深度掘削の実施

○地球観測調査検討ワーキンググループ各部会報告

(H16.11.29 地球観測調査ワーキンググループ)

<位置付け>

地球観測の各分野の部会を設け、現状、観測ニーズ、今後の取組方針(優先的に取り組むべき課題・事項)等について集中的な調査・検討を実施した。本検討の結果を受け「地球観測の推進戦略」が策定された。

<各部会>

地球温暖化部会 地球規模水循環部会 地球環境部会 自然災害・防災・資源探査部会 定常観測部会 地球科学部会 データシステム部会 国際対応部会 生態系部会

○地球観測データ統合化システムの開発

海洋

ニーズの把握・開発すべき技術を議論

宇宙

○次世代海洋探査技術に関する研究開発計画(H18.6.6 文部科学省)

<位置付け>

上記の「地球観測調査検討ワーキンググループ各部会報告」に示された観測項目等をはじめとする利用者ニーズの検討に基づき、科学技術学術審議会海洋開発分科会次世代海洋探査技術委員会において、次世代海洋探査技術として必要な技術・センサ等を審議し、取りまとめた。

○我が国の地球観測における衛星開発計画及びデータ利用の進め方について H17.6.27 宇宙開発委員会 地球観測特別部会)

<位置付け>

上記の「地球観測調査検討ワーキンググループ各部会報告」に示された観測ニーズとセンサとの対応関係の整理等に基づき、宇宙開発委員会において、我が国の地球観測衛星の開発・利用の今後のあり方について取りまとめた。